

地域交通安全員の配置は一日5時間に！

井口市議、3月議会で質問

危険な交差点などに立って小学生の登下校時の安全を守ってくれているのが、「学童等交通誘導員」と「地域交通安全員」の方たちです。同じように街角に立っていても、この二つの制度はまったく違います。二年後には一本化されるのですが、問題点が明らかになりました。

学童等交通誘導員はあと二年

きちんと制服を着て朝も夕方も立っているのが「学童等交通誘導員」です。県の制度で市も補助金を出して、一日五時間の勤務になっています。長い方は二〇年以上この仕事をしており、子どもの名前も覚えて、とても慕われている存在です。県はこの間、退職後の補充をせず、ついにこの「学童等交通誘導員」の制度を、平成二十一年度で廃止することにしました。

地域交通安全員は一日一時間

学童等交通誘導員が減っていくなかで、「危険な交差点には誰か立ってほしい」と強い要望に市の教育委員会が「臨時交通整理員」を配置しました。これが昨年からは「地域交通安全員」と名称を変えました。基本的には朝一時間のみで、学校から要望があれば放課後一時間半は配置します。制服もなく、黄色い旗と腕章が支給されるだけで、給与もわずかな時給です。川崎市は、学童等交通誘導員が廃止されたあとは、この地域交通安全員に置き換わっています。

現在、近隣に配置されている

学童等交通誘導員

菅小学区：稲田堤踏切不二家前

東菅小学区：小学校北宮ノ下マンション前

下布田小学校区：サミット前

地域交通安全員

菅小学校区：天宿第二踏切前交差点

菅二丁目新指月橋付近

安全員の制度で、子どもたちの安全を守るとしています。

井口市議、朝の様子を視察

そこで井口市議は、昨年七月から中野島中央通商店街の交差点に配置されている地域交通安全員の仕事を視察しました。道路が狭くて信号待ちの待機場



たくさんの子どもが通う朝の交差点で、交通整理をする、地域交通安全員

長く続けられるよう改善を

井口市議は三月七日の予算審査特別委員会で、「一日五時間立つことが何よりも子どもの安全の確保に必要。そしてそれがプロとして働き続けられる条件」とただし、木場田教育長は「業務内容は『一人一人の顔が見える』、蓄積が重要なもの」「業務遂行にふさわしい経験豊かな方をお願いしたい」とこたえ、二年後の体制は、それまでに検討するとこたえました。

市内には、多くの障害者施設があり、社会福祉施設がいくつも集中している「川崎市総合リハビリテーションセンター」を再編整備する計画を発表しました。老朽化した施設を改築するのにあわせ、組織も再編するといふものです。このなかで、「施設を積極的に民営化する」ことが方針としてうたがわれています。

障害者施設の民営化は福祉の重大な後退

日本共産党は三月議会で、「障害者施設の民営化は、福祉の重大な後退」と代表質問などでとりあげました。日本共産党は三月議会で、リハビリテーションセンターには、いまは四つの市直営の入所施設がありますが、福祉に手厚かつ

多摩スポーツセンターの事業を行う事業者が決定

2010年12月開館に向けて始動

川崎市は三月一九日、(仮称)多摩スポーツセンターをPFI事業で実施する民間事業者を決定したと発表しました。

この事業は、設計、建設から運営まで一貫して民間事業者が行う手法で、まずこの事業を請け負う民間の事業者のグループを募集します。その後このグループを中心に株式会社を設立し、実際の建設に入ります。

落札したのは、

大和リース株式会社グループ

代表企業 大和リース株式会社横浜支店

支店

構成企業 株式会社ハリマピステム

株式会社日本水泳振興会

株式会社梓設計

とのこと。落札金額は三十四億八千六百万円(消費税、地方消費税を含まない)。二〇一〇年十二月開館をめざします。

温水プールを作る運動を始め、さまざまな市民の要望を議会ですべていき」と語っています。

落札者の提案外観イメージ図
本図は参考資料として提出されたものであり、実際の建築イメージとは異なる場合があります。

